

**申命記 6回**  
**「モアブとアンモンを迂回」**  
**申 2：9～25**

1. はじめに

(1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

- ①自分たちは、どこから来たのか。
- ②自分たちにカナンの地を与えると約束してくれたのは、誰か。
- ③カナンの地で生きる目的は何か。

(2) 申命記のアウトライン（宗主権契約の形式）

- ①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）
- ②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）
- ④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(3) 2章のアウトライン

- ①カデシュ・バルネアからセイル山まで（2：1～8）
- ②モアブとアンモンを迂回（2：9～25）
- ③ヘシュボンの王シホンに対する勝利（2：26～37）

(4) モアブ人とアンモン人の起源（創 19：36～38）

- ①ロトは、アブラハムの甥である。
- ②ロトの2人の娘は父親によって身ごもった。
- ③姉が産んだ子は、モアブと名づけられた。モアブ人の先祖。
- ④妹が産んだ子は、ベン・アミと名づけられた。アンモン人の先祖。
- ⑤モアブ人とアンモン人は、イスラエル人の親戚である。

2. メッセージのアウトライン

- (1) モアブを迂回するイスラエルの民（2：9～13）
- (2) アンモンを迂回するイスラエルの民（2：14～25）

3. 結論

- (1) 聖書の靈感
- (2) 土地の所有に関する【主】の主権

## モアブとアンモンの迂回について学ぶ

### I. モアブを迂回するイスラエルの民(2:9~13)

#### 1. 前回のメッセージの最後の聖句(申2:8)

Deu 2:8 それで私たちは、セイルに住むエサウの子孫である私たちの同族から離れ、アラバへの道から離れ、エイラトからも、またエツヨン・ゲベルからも離れて進んで行った。／そして、私たちは向きを変えて、モアブの荒野への道を進んで行った。

- (1) エサウの子孫であるエドム人の地から離れた。
  - ①エドムの地を東に迂回し、モアブ人の地に近づいた。
  - ②地図表示

#### 2. 9節

Deu 2:9 【主】は私に言われた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである。」

- (1) 「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない」
  - ①モアブ人は、ロトの子孫である。
  - ②イスラエルの民は、モアブに対しても戦争を避けるように命じられた。
  
- (3) 「あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである」
  - ①その理由は、モアブの地はイスラエルのものではないからである。
  - ②【主】をその地を、ロトの子孫に与えておられた。
  - ③アルという町の名が、モアブの地の代名詞として使われている。
  - ④アルは、モアブの国境の町である(民21:15)。

Num 21:15 アルの定住地に達する谷川の支流は、／モアブの領土を支えている。」

- ⑤エドムの地と同様に、モアブの地にも敬意を表する義務がある。

#### 3. 10~11節

Deu 2:10 ——以前そこにはエミム人が住んでいた。アナク人のように大きくて背の高い民で、数も多かった。

Deu 2:11 アナク人と同じく彼らもレファイムであると見なされていた。モアブ人は彼らをエミム人と呼んでいた。

- (1) 申2:10~12は、物語の流れとは関係のない挿入句である。
  - ①モーセより後の編集者が、補足説明を加えている。
  - ②この加筆は、カナンの地征服後に行われたと思われる(次の12節を参照)。
  - ③挿入句の目的は、モアブ人とエドム人が先住民に勝利した理由を示すため。

(2) 申 2 : 10~11 は、モアブ人がエミム人との戦いに勝利した記録である。

①モアブ人は、その地に住んでいたエミム人を征服した。

\*エミム人は、大きくて背が高く、数も多かった。

\*エミムとは、「恐ろしい」という意味である。

\*エミム人は、アナク人のように巨大であった。

\*エミム人は、その巨大さのゆえに、レファイム人だと見なされていた。

②アナク人もレファイム人と見なされていた。

\*レファイム人は、背が高い民として知られていた。

\*創 15 : 20 にその名が出て来るが、詳しくは分からない。

③アナク人とエミム人＝レファイム人のような民族

④モアブ人は、この長身で強力な民をその地から追い出すことができた。

⑤追い出せた理由は、【主】がその地をモアブ人に与えておられたからである。

### 3. 12 節

**Deu 2:12 セイルには以前フリ人が住んでいたが、エサウの子孫がこれを追い払い、これを根絶やしにし、彼らに代わって住むようになった。ちょうど、イスラエルが【主】の下さった所有地に対してしたようにである――**

(1) 申 2 : 12 は、エサウの子孫（エドム人）がフリ人に勝利した記録である。

①彼らは、先住民であるフリ人を追い出し、その地を征服することができた。

(2) モアブ人とエドム人は、ともに戦いに勝利することができた。

①【主】がそれぞれの地を彼らの所有として与えてくださったからである。

②両者が勝利した理由は、同じである。

③それなら、イスラエル人もカナン人との戦いに勝利できるはずである。

④この確信に立って、イスラエルの民は立って約束の地に向かうのである。

(3) 「ちょうど、イスラエルが【主】の下さった所有地に対してしたように」

①この聖句により、挿入句の部分がカナン征服後に書かれたことが分かる。

### 4. 13 節

**Deu 2:13 今、立ってゼレデ川を渡れ。」そこで私たちはゼレデ川を渡った。**

(1) ゼレデ川とは、東から死海の南端に流れ込む約 50 キロのワジである。

①地図表示

②この渓谷は、エドムとモアブの境界線を東西に走っている。

③この渓谷を渡ると、そこはモアブの地である。

(2) 新しい世代のイスラエルは、勝利の確信を持ってその溪谷を渡った。

- ①【主】にあって不可能はないという確信である。
- ②神の御心に叶っているなら、必ず勝利するという確信である。
- ③新しい世代は、信仰によって行動を開始した。
- ④私たちも、霊的ゼレデ川を渡ろうではないか。

## II. アンモンを迂回するイスラエルの民（2：14～25）

### 1. 14～15 節

**Deu 2:14** カデシュ・バルネアを出てからゼレデ川を渡るまでの期間は、三十八年であった。それまでに、その世代の戦士たちはみな宿営のうちから絶えてしまっていた。【主】が彼らについて誓われたとおりであった。

**Deu 2:15** 確かに【主】の御手が彼らに下り、彼らをかき乱し、宿営のうちから絶やされたのである。

- (1) カデシュ・バルネアからゼレデ川を渡るまでの期間は、38年間であった。
  - ①これは、荒野の放浪期間である。
  - ②これは、出エジプトの世代が死に絶えるために必要とされた期間である。
  - ③これは、【主】が誓われたことが成就するために必要とされた期間である。
  - ④【主】への従順は、人生を単純化する最善の方法である。
  
- (2) 「確かに【主】の御手が彼らに下り、彼らをかき乱し、…」
  - ①出エジプトの世代は、自然死を迎えたのではない。
  - ②彼らは、神の裁きによって滅びた。
  - ③「彼らをかき乱し」とは、敵と戦えない状態か、仲間打ちの状態を指す。

### 2. 16～19 節

**Deu 2:16** 戦士たちがみな民の間から絶えたとき、

**Deu 2:17** 【主】は私に告げられた。

**Deu 2:18** 「あなたは今日、モアブの領土アルを通ろうとしている。

**Deu 2:19** アンモン人の近くに行くが、彼らに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたにはアンモン人の地を所有地として与えない。わたしはそれをロトの子孫に所有地として与えたからである。

- (1) イスラエルの民は、モアブの領土アルの東側を北上しようとしている。
  - ①モアブの東側には、アンモン人の地がある。
  - ②アンモン人は、ロトの息子ベン・アミの子孫である。

③モアブ人とアンモン人は、イスラエル人の親戚である。

(2) イスラエル人は、アンモン人に戦いを仕掛けてはならない。

①その地は、【主】がロトの子孫であるアンモン人に与えられたものである。

### 3. 20～21節

**Deu 2:20** —そこもレファイムの地だと見なされていた。以前はレファイムがそこに住んでいて、アンモン人は彼らをザムズミム人と呼んでいた。

**Deu 2:21** 彼らは、アナク人のように大きくて背が高い民で、数も多かった。しかし【主】がこれを滅ぼされたので、アンモン人がこれを追い払い、彼らに代わって住んだ。

(1) 申2:20～23は、2つ目の挿入句である。

①アンモン人は、レファイム人を追い払った。

②アンモン人は、レファイム人をザムズミム人と呼んでいた。

③彼らは、アナク人のように大きくて背が高く、数も多かった。

(2) アンモン人が勝利できた理由は、【主】が働かれたからである。

①これもまた、イスラエルの民にとって励ましとなった。

②民13:28

**Num 13:28** ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があつて非常に大きく、そのうえ、そこでアナクの子孫を見ました。

\*かつては、巨人が住んでいることが、恐れの原因となった。

\*【主】の助けがあれば、いかなる巨人にも勝利できる。

\*私たちへの挑戦であり、励ましである。

### 4. 22～23節

**Deu 2:22** それは、セイルに住んでいるエサウの子孫のために、主が彼らの前からフリ人を滅ぼされたのと同じである。彼らはフリ人を追い払い、彼らに代わって住み、今日に至っている。

**Deu 2:23** また、ガザ近郊の村々に住んでいたアビム人については、カフトルから出て来たカフトル人が根絶やしにし、彼らに代わって住んだのであった——

(1) 同じことがエサウの子孫に起こった。

①彼らは、先住民フリ人を追い払い、セイルに住むようになった。

(2) もう一つの例は、ガザ近郊での住民交代劇である。

①そこには、アビム人が住んでいた。カナン人の一部族である。

②カフトル人が、アビム人に代わって住んだ。

③カフトル人とは、ペリシテ人であろう。

#### 5. 24～25節

**Deu 2:24** 立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ。見よ、わたしはヘシュボンの王アモリ人シホンとその国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ。

**Deu 2:25** 今日から、わたしは天下のあらゆる民に、あなたに対するおののきと恐れを抱かせる。彼らはあなたのうわさを聞いて震え、あなたの前でもだえる。」

(1) 「立ち上がって出発せよ。アルノン川を渡れ」

①アルノン川は、東から西に流れ、死海に注ぎ込む川である。

②地図表示

③アルノン川を渡ると、アモリ人の地に近づく。

④首都はヘシュボンである。

⑤ヘシュボンの王は、アモリ人シホンである。

(2) 「…その国を、あなたの手に渡す。占領し始めよ。彼と戦いを交えよ」

①アモリ人の国とは、ギルアデと呼ばれる地である。

②ギルアデは、アブラハムへの最初の約束には含まれていなかった。

③しかし【主】は、ギルアデをイスラエルの民に渡すと言われた。

④ヘシュボンの王シホンとの戦いは、約束の地征服の第一歩である。

\*カナンの地征服のための予行演習である。

(3) 「今日から、わたしは天下のあらゆる民に、あなたに対するおののきと恐れを抱かせる」

①民にとって最大の武器は、【主】から来る「おののきと恐れ」である。

②イスラエルの敵は、戦意喪失状態に陥る。

## 結論

### 1. 聖書の靈感

(1) 靈感とは、「神の息吹が吹き込まれた」という意味である。

(2) 著者が記録を残す際に、神が守り導かれたという意味である。

(3) 2テモ 3:16

**2Ti 3:16** 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

(4) 完成した書の中に誤りはないという保証である。

(5) モーセ以外の編集者が加筆した部分も、靈感を受けている。

## 2. 土地の所有に関する【主】の主権

### (1) 出 20 : 15

**Exo 20:15** 盗んではならない。

- ①すべての罪の根源は、この聖句にある。
- ②人は、神のものを盗み、他人のものを盗む。

### (2) 箴 23 : 10

**Pro 23:10** 昔からの地境を移してはならない。／みなしごの畑に入り込んではいけない。

### (3) 申 2 : 9

**Deu 2:9** 【主】は私に言われた。「モアブに敵対してはならない。彼らに戦いを仕掛けてはならない。あなたには、その地を所有地として与えない。わたしはアルをロトの子孫に所有地として与えたからである。」

### (4) 隣人の権利の尊重

- ①動産、不動産、知的財産など、あらゆるものが含まれる。
- ②良好な人間関係の基本である。